



十  
二  
月

# パストラル尼崎

師  
走

No.115, 2021 (R3) 年11月25日

〔編集・発行〕

パストラル尼崎

尼崎市潮江1丁目10-2

Tel. 06-6493-0521

Fax. 06-6493-0301

発行責任者：峰田 康弘

## 関西弁は格下なのか・・・

若い頃、海外旅行先で友人と話していると、標準語を話す同世代の青年から「外国で関西弁を聞くとイラっとするんだよね!」とすれ違いざまに言い放たれ、当時の乙女心は完全崩壊!泣 そんな悲しい経験から、今回、関西弁が方言に成り下がった屈辱の歴史を調べてみる事にしました。その歴史は明治の末期と意外と浅く、それ以前の日本は江戸から4km離れただけでも言葉が通じない方言だらけの国だったようです。

では平安時代はどうだったかというと、京都人が関東人の話す様子を、「東鳥(あずまがらす) = (東国の人)の蔑称」が鳴き合うようなけたたましく下品な声」(今昔物語)とこき下ろしたり、武士が台頭し様々な言葉が京都に流入してくると、「田舎言葉がまじりて悪しくなりける」と嘆いています。この頃は京都が圧勝!もしもこの時代、あの青年達が烏丸通りを歩いていたら“あずまがらす”と後ろ指を指されていたかも。ホホホ・・・

そして江戸時代、幕藩体制下の68か国では様々なお国言葉が飛び交います。それは明治に入っても変わらず「言語不通」の状況が続きました。【では全国を行脚し悪政を正した「水戸黄門」は大嘘だったのか!「控えおろう!」くらいはわかっても、あとは意味不明だったはず!そもそも架空の話ですが 笑]

その為、当時は文語や謡曲、筆談で意思疎通を図ったそうですが、こうみると言葉が十分通じないまま明治維新を成し遂げた事は奇跡ですよ。

これでは国として立ち行かないと、人工的に作られた標準語が誕生します。そのベースとなったのが東京山手の中流家庭の言葉。ここが関西弁が方言になった分岐点となります。候補には天皇の母語、京言葉もあがりましたが採用される事はありませんでした。(もっと天皇に力があつたならば・・・)十五歳まで京都にいた明治天皇は、東京語の時は大声で、優しく話す時は小さな声で京都語で話していたそう。(お気の毒です。)

その後はラジオやテレビなどが発達し、標準語が身近になり日本中どこに行っても言葉に不自由する事はなくなりました。しかしその弊害として方言を馬鹿にしたり「方言撲滅運動」のような過激な運動も展開されたりします。そんな中でも現在の関西人、標準語に屈する事無く、どこにいても関西弁を誇り高く話す姿が見られます。「こっちは作りもんちゃうで〜!天然もんやし!」笑



通訳がいるの〜!

## ◆十二月の歳時記◆

「吉良上野介はそんなに悪人ではなかった?」

十二月十四日といえば赤穂浪士討ち入りの日。昔は必ずと言っていいほどテレビで放映され、仇である吉良上野介を打ち取ったあとの四十七士の姿に何度も感動したのですが、最近はお下火になりましたね。歴史は勝者によって作られる」といいますが、最近、極悪人と言われた人たちが次々と名誉回復していませんか? たえば謀反人の最高峰「明智光秀」は、そのイメージを翻し、NHKの大河の主人公にまでなりました。「忠臣蔵」の吉良上野介も地元では名君として有名だったとか、逆に非業の死を遂げた浅野内匠頭の性格はキレイやすかった、など多方面から検証されるようになりました。あの「大公方」といわれた綱吉も、老人や孤児を保護せよという優しさも持ち合わせていたようですし、賄賂政治を行った悪名高い老中「田沼意次」は財政赤字解消のため蝦夷地開拓、鉱山の開拓など様々な手を打っています。映画やドラマの吉良上野介は、月形龍之介や小沢栄太郎など名優たちがこれでもかと憎々しく演じ、仇討されて当然という悪人像をいっそう私達に植え付けました。「勝手に極悪人にしないでよ」と吉良さん、あの世で怒ってるかもしれないね。汗



月形龍之介

## 公認サンタは過酷です!

公認のサンタクロースがいるってご存知ですか?「グリーンランド国際サンタクロース協会」で認定された人のみだそうですが、その条件は恐ろしいほど厳格かつ過酷です! まず基本は既婚で子持ち、サンタにふさわしく120kg以上の体重、しかもただの肥満?ではなく、次のような試験も課されます。

プレゼントの入った袋を担いで50メートル全力疾走、そのまま梯子(はしご)で高さ約3mの煙突に昇ったあと暖炉から這い出し、子どもたちが用意したクッキー6枚と牛乳を完食し、元の場所にわずか2分で戻るという巨漢サンタにとってまさしく命がけ。汗 最後は面接などを経てやっと公認サンタに認定されますが、公認後も子どもの夢を壊さぬよう道中でサンタクロースの衣装に着替えることは許されず、日本で唯一の公認サンタ山元さんは、世界サンタクロース会議に参加する際、日本の自宅からサンタクロースの衣装を着用し、飛行機内でもそのままの服装だったそうです。(鋼の心臓も必要です!)しかし公認サンタクロースは、無報酬の名誉職。すべては子どもの「ありがとう」の為、現在、120名のサンタが世界中、あちこちを自費で駆けまわっているそうですよ。

